

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290600091		
法人名	社会福祉法人 花の村		
事業所名	グループホーム 合歓の丘		
所在地	島根県江津市後地町2935番地4		
自己評価作成日	平成29年9月15日	評価結果市町村受理日	平成29年12月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2017\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd](http://index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成29年10月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

同敷地内にはグランドゴルフが行える多目的広場があり、地域交流の拠点としての機能も兼ね備えています。(法人全体での紙ヒコキ飛ばし大会、家族会にてバーベキューでの食事も実施)さらに、同法人の保育園が側にあるので行事への参加、見学も可能。定期的に園児も遊びに来てくれるなど交流を持たせてもらっている。また、広い敷地の空きスペースを活用し花壇、畑を利用者さんと一緒につくり、さまざまな四季折々の花など一緒に栽培し、外出、体を動かす機会、量を多くとれるよう職員一同意識しています。今年は回想法も取り入れ、かまど作りを計画中です。入浴については温泉入浴が可能で、利用者さんにとっても喜んでいただいています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人は職員一人ひとりの力量に合わせ認知症リーダー研修や「学びたい事業所」に実習に行く等支援し、肌で感じて欲しいとの思いで職員の研修に力を入れている。今年度事業所目標に「回想法」を掲げ、昔の写真を通して利用者や家族が増えたり、釜で炊飯できる様に広場に釜戸を作製中である。職員は利用者が自宅と同様に炊事や畑仕事、花作り等、自由にできる事やしたい事が継続できる様に支援し、一人ひとりの住み慣れた地域の催しに参加し馴染みの関係を大切にして本人本位の暮らしになるようにと取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回あるミーティングの際、事業理念の唱和を必ず行っている。理念については職員間でも共有し、それに基づいた行動を意識し、介護の現場に結びつけている。	事業理念に基づいて行動指針の「利用者の立場」や「自分の親だったら」と日々話し合い、利用者の「今」を意識した支援の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々、買物や散歩、受診、ドライブ等利用者と一緒に出かけ、様々な地域の催しへも参加している。その都度交流することは継続出来ているがもう少し機会を増やしたい。	住み慣れた地域の「花田植え」や「港祭り」等の見学や敬老会に参加したり、寺参りで挨拶を交わし地域の人と繋がりながら暮らせるように支援している。地域の人の来訪や面会などもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解や支援の方法は色々出かけた際、地域の方に理解していただけるよう意識し支援している。キャラバンメイトの活動も継続出来ている。さらに、地域の方へも認知症の研修開催も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、利用者やサービスの取り組み等の状況について報告や話し合いを行い、そこでいただいたご意見をサービス向上に活かしている。	状況や活動報告を行い議題に合わせ相談や意見交換をしてサービスに活かしている。土地柄、猿や山カカシ、蛇の対策等の情報を得ている。利用者も参加し「皆さんがこんなことをしてくれる」等気持ちを伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、情報の交換、共有はできており、必要な時は随時連絡を取らせてもらっている。また、月1回市町村担当者におたよりも届けている。	主に運営推進会議で実情を伝え手続き等必要な時は随時連絡して相談している。今年度から毎月便りを持参し情報を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年施設内で研修を行い理解を深めている。またミーティングの際にも気付きなど話し合い振り返るように心掛けている。さらにどうしたらなくてすむのか考えながら支援に取り組んでいる。	身体拘束の研修に参加し毎月のミーティングで気づき等を話し合い振り返りを行っている。帰宅願望の利用者には一緒に自宅に行ったり、ゆっくり話を聞く等利用者の立場になり対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待が見過ごされることがないように職員どおし注意を払い、情報収集もおこなって防止に努めている。定期的な研修もあり参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが、関心をもってもらえるよう意識している。制度は理解しており必要性は生じた場合は活動できる体制は整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解除・改定の際は、利用者・家族に丁寧な説明を心がけ理解と納得を得てもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表せる機会としては運営推進会議や外部評価を想定しているが、面会時や家族会等のご意見や要望も運営に反映できるようにしており、運営推進会議の議事録も閲覧できるよう玄関先に設置している。	家族会や運営推進会議、面会時に日頃の様子を伝え意見や要望を聞くことに努めている。毎月の便りで外出や日頃の様子を写真やコメントで伝え要望等随時対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや、随時業務の中で意見や提案をもらい、法人全体のリーダー会議等でも提案、反映出来る仕組みがあり活用している。朝食用食器の改善も行った。	職員と日頃から何でも言い合える関係をつくり意見を聞く事に努めている。業務改善や今年度玄関先に職員手作りのスロープを設置するなど意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが意欲的に働けるよう職場環境、条件の整備に努めており、処遇の改善も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会も設置されており法人内外の研修を受ける機会も確保されている。また職員に育ってもらえるよう日々の業務の中で意識しながら取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は少ないが、相互に意見交換はその都度出来ている。またそれを活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等には丁寧に耳を傾け常に一緒に過ごすことを念頭に入れ努めている。面談、見学の際においても場所、時間を含め信頼関係づくりに配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安なこと、要望等にも丁寧に耳を傾けることで家族の安心の確保に努めている。面談、見学の際にも場所、時間などを含め信頼関係づくりに配慮している。出来ていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時まず必要としている支援を見極めている。GHは制限等もあるが他のサービスも含めた対応に努め、ご意見、ご要望を伺いながら支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必ず何か行う際は一緒に行動し、役割を持っていただけるよう支援している。(小グループあり)暮らしを共にする者同士の関係も築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の様子をお伝えしたり、ご本人さんからも電話の出来る環境も整っている。面会、家族会などの機会も大切に、絆を大切にしながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ地域の方が、併設の小規模多機能施設へ来られた際は、行き来して交流を持ってもらっている。また買物の際も本人が暮らしておられた地域のお店にも買物へ出かけたりしている	昔の写真を家族に持参して貰ったり、利用者一人ひとりの馴染みの場所に外出したり、昔の仕事や家族のことなどを話題にしている。知人の葬儀に職員が同行し参列した人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立しないよう、また、トラブルに繋がらないよう間に入り利用者同士が関わり合いが出来るように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了時には必ずその旨お伝えしている。必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努め、決して無理強いせず、その時その時の表情に気を配り本人らしい生活が出来るように支援している	生活歴の把握や日頃の会話の中で意向の把握に努め「利用者が何を望んでいるのか」ミーティングで話し合い利用者の望む暮らしの支援に努めている。炊事や畑仕事、家に帰りたいなど生活の中に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回時だけでなく、面会時などにも情報収集し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かする時でも出来るだけ見守るようにして観察し小さな変化にも気付けるよう現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に情報が共有出来る様、職員全員ではないが随時口頭での話し合いは出来ており、日々の支援、介護計画作成の際に活かしている	利用者、家族からの要望や暮らし方を聞いたり関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。モニタリングで情報交換し達成したプランに対しては新たなプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践、結果、気づき等、日誌や個人記録、連絡ノートへ記入し情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれないように、様々な角度からのアプローチを心がけアイデアを出し合いながら利用者さんの五感を刺激できるサービスになるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の能力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめるよう地域資源の活用も意識しながら支援にはあたっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と常に連携をとり、本人・家族とも話し合いながら適切な医療が受けられるよう支援しており出来ている	利用者、家族の希望するかかりつけ医による訪問診療や、受診に同行する等適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの職員には看護師は配置されていないが、併設の小規模と法人内の両看護師との連携はとれており、適正な受診や看護を受けられる体制は整っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係諸、主にMSWとの情報交換や相談は出来ている。あわせて出来るだけ早期に退院できるように取り組んでいる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族等と話し合い事業所で出来る事を十分説明しながら方針を共有し、チームでの支援も出来ている。実績有。	状態に合わせ利用者、家族、関係者と話し合い事業所でできることを伝え対応している。協力医の理解や協力も得られ看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の方法等、年1回は研修があり、それ以外にも機会があれば研修にも参加するように取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は定期的に避難訓練を行っている。地域との協力体制も整っている	定期的な訓練を行い出火場所に依じて併設の他施設に避難する等職員の役割を理解し取り組んでいる。玄関先にスロープを設置し安全な誘導に繋がったり、居室入口に避難した人の確認の印も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修もだが、トイレなどは同姓対応に努めたり、その都度表情仕草などに配慮しながら対応している	生活歴を把握し人生の先輩として尊厳を傷つけない言葉かけや対応をしている。トイレの声掛けは周りの人に聞こえないように配慮したり、食事中利用者のペースでゆっくり食べられるように見守り支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オープン、クローズの質問を使い分け出来るだけ自己決定が出来る様努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度希望は聞き希望に沿って支援するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服も一緒に選ぶようにしている。出来ている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食ごとに一緒に準備しており、好みや力も活かしている	畑で野菜を収穫したり、調理や食器洗い等利用者の力が活かせるように台所に椅子をセットし活躍の場面を作っている。職員が釣ってきたイカや鰻をさばく所を見たり広場で家族とバーベキューを楽しむ等している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援に心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否等ある方、場合もあるが概ね出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者本人にもその旨お話しし、職員間で排泄パターン等共有している。自立に向けた支援は出来ている。今はないが紙パンツから布パンツが出来た方もおられる	一人ひとりの排泄間隔を夜勤専門の職員と共有し利用者に合わせた声かけや見守りを行い対応している。夜間ドアの取っ手に反射ベルトを巻き位置が分かるようにする等自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分摂取に努め、出来るだけ自然排便を促している。食事内容にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	シャワー浴は何時でも出来るようにしている。温泉入浴については使用時間帯が決まっている。希望はその都度聞き、個々に沿った支援は行っている	利用者は開設当初より法人の温泉を楽しみに利用し、希望で毎日入る人もある。事業所内には浴室やシャワー室もあり身体状況に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝日にあたってもらったり日中は、運動や散歩を意識して過ごしていただくよう配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクター（薬剤師含む）との連携も取れており、薬の効能などの学習会も適宜行っている。また、薬の効能など個別にファイルに綴じ、すぐ確認できる状態にしてある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ、花壇の世話、畑作業、料理、工作、頭の体操など一人ひとりに合った役割、楽しみ、気分転換に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気軽に出かけて頂けるよう努めている。自発的に希望もおっしゃられ支援している。外泊もされるなど家族の協力も得られている	日頃から気軽に広場や畑で稲刈りや野菜や花を作り外気浴している。希望で家までドライブしたり、一人ひとりの地域の催しを見に出かける等外出に力を入れている。今年度は広島市の平和公園に数名で外出する計画をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理そのものは職員で行っているが、一人ひとり要望があれば自由に使い、買物にも一緒に行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ配慮、努力はしている。温度、湿度、臭いなど。特に季節の花を生けたりと季節感を感じていただけるようにもしている	テラスには収穫した稲やへちま、干し柿等が吊るしてある。日頃の生活の様子が分かる写真や花が飾ってあり、冬場はホールに畳を敷き、炬燵で寛げる様に生活感や季節感を取り入れた環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーが設けてある。また、冬場にはこたつを出し、スペースを新たに作ったりと工夫もその都度行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人家族と相談しながら作っている。一人ひとり本人が居心地よく過ごせるように対応している	利用者、家族と話し合い冷蔵庫、炬燵、箆笥、テレビや写真等置いている。盆栽が好きな人はいつでも手が届く所で世話ができるようにしている。管理者は家族から随時好みの物等相談を受け対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事を活かした上で、安全にも配慮しながら工夫して支援している		